



別府の共同温泉ピンチ

清掃担う人 確保難しく

【別府】別府市内の共同温泉で、清掃を担う人の確保が難しくなっている。市のアンケートでは、4割の施設が担い手不足に苦慮していると回答した。背景には運営に当たる組合員の減少や高齢化があるとみられる。管理ができず閉鎖する施設も出ており、関係者は「別府を象徴する文化が10年、20年先に失われてしまいかもしれない」と危機感を募らせている。

共同温泉は地元住民らの組合などが運営しており「ジモ泉」とも呼ばれる。市によると、2024年4月時点で市内に100カ所ある。アンケートは昨年5～6月、持続可能な施設運営を検討する目的で実施。70施設から回答を得た。調査では「困り事」として76%が「管理者の高齢化」を挙げ、40%が「清掃する人の確保」と答えた。「最も大きな支出」は清掃費が49%で最多。高齢化や組合員数の減少により43%は掃除を業者に委

管理できず施設閉鎖も



デッキブラシを使い、共同温泉のタイルを磨く清掃業者＝4月、別府市の若草温泉

託しており、高額な清掃コストが運営の負担となっている実態が浮かんできた。若草温泉（若草町）で役員を務める男性(69)は「多くの

施設で運営が崩壊しつつあるのでは」と案じる。同温泉では昨年7月末、これまで委託していた清掃業者から「廃業した」と連絡があった。新たな引受先はなかなか見つからず、委託料を2倍に引き上げ契約してくれる業者を確保したという。

行政による支援は限定的だ。市は施設の補修に充てられる補助金は設けているものの、清掃費などソフト面に関しては「あくまでも組合が主体となつて対応するのが原則」との立場を取る。

問題解決の糸口として、市温泉課は「横のつながり」の構築を呼びかける。近隣の複数の施設が同じ業者に清掃を一括委託すれば、費用を安く抑えられる可能性もあり、施設間の交流を促進する意見交換会を開いている。

市内では京町温泉（京町）など複数の施設が運営に行き詰まり、近年、閉鎖や休業に追い込まれた。

NPO法人「別府八湯温泉道名人会」の花田潤也理事長（45）は「若者に共同温泉を身近に感じてもらう、引き継いでいく取り組みが必要だろう。ネーミングライツ（命名権）の付与といった企業との連携による運営の可能性も探るべきだ」と提言した。

（横田 孝成）



〔問①〕市が昨年5～6月に行ったアンケートの目的は何ですか。

〔問②〕「ネーミングライツ（命名権）の付与」とはどういう仕組みで、どのような効果があるのでしょうか。調べてみましょう。

〔問③〕NPO法人の花田理事長は「若者に共同温泉を身近に感じてもらい～」と話していますが、どのような取り組みが効果的でしょうか。アイデアを書いてみましょう。また、周りの人と意見交換してみましょう。
